

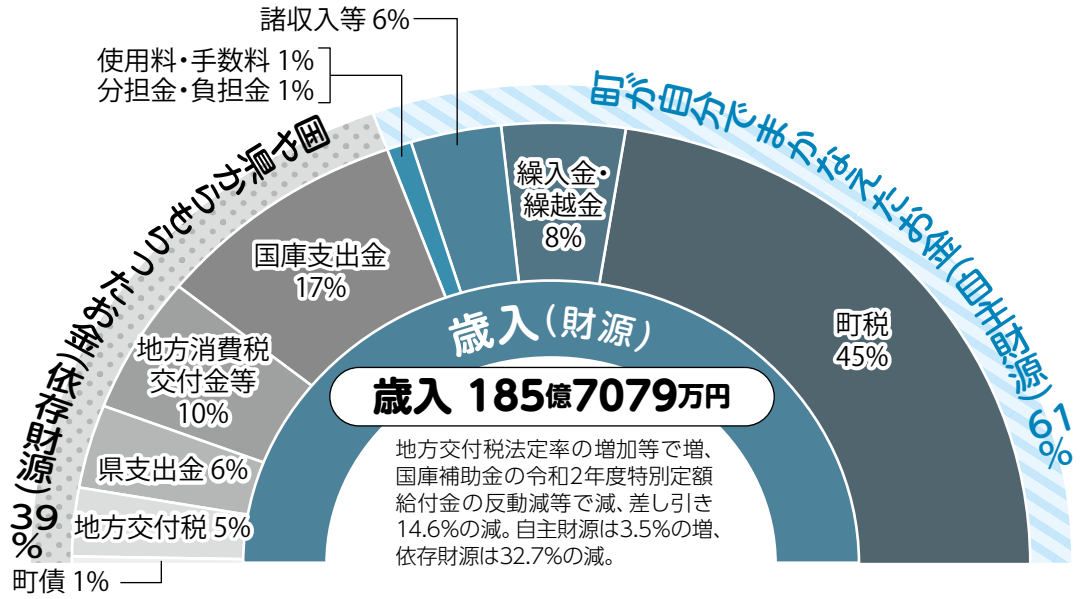
コロナ禍の令和3年度、住民の皆さんの税金がどのように使われたか、来年度の予算編成に生かせるよう徹底審査しました。

# 令和3年度 一般会計決算

認定

**歳入**  
14.6%  
DOWN!

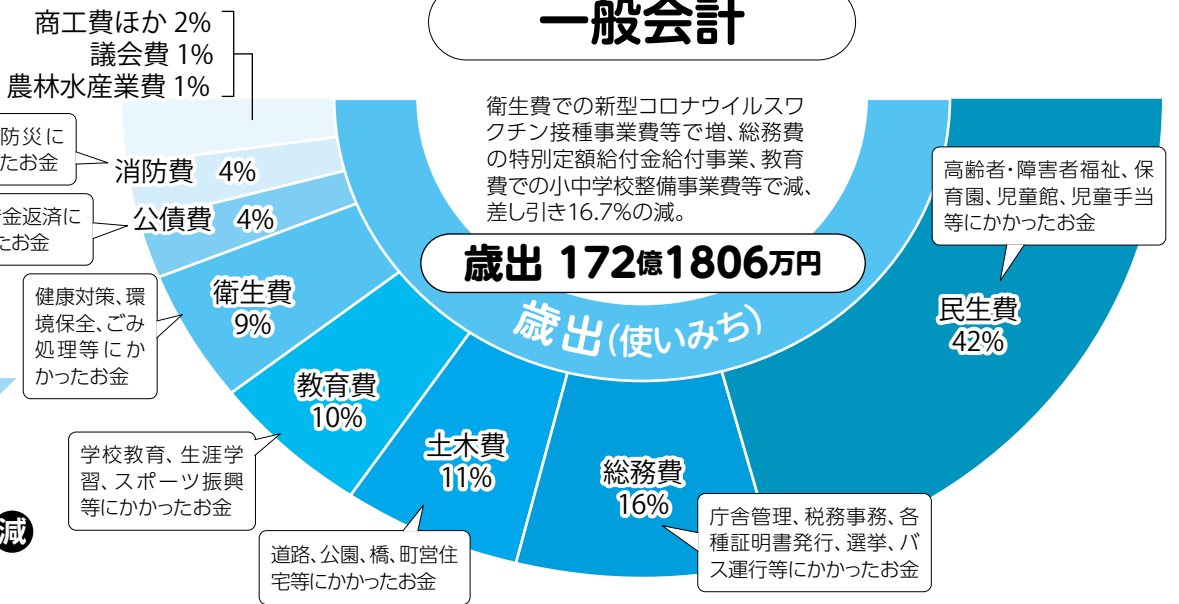
31億6292万円 減



## 一般会計

歳出 172億1806万円

歳出(使いみち)



**歳出**  
16.7%  
DOWN!

34億6251万円 減

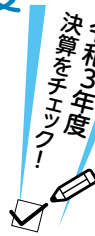
令和3年度  
一般会計決算  
町民1人当たり  
いくら使った?  
※令和3年度末人口  
50,372人から算出

1人当たり  
341,818円  
使いました

<p><b>総務費</b> 54,725円</p> <p>98,594円DOWN ↓</p>	<p><b>民生費</b> 141,603円</p> <p>23,554円UP ↑</p>	<p><b>教育費</b> 34,065円</p> <p>3,241円DOWN ↓</p>	<p><b>土木費</b> 38,841円</p> <p>3,499円UP ↑</p>
<p><b>衛生費</b> 30,651円</p> <p>8,360円UP ↑</p>	<p><b>公債費</b> 15,006円</p> <p>989円DOWN ↓</p>	<p><b>消防費</b> 12,711円</p> <p>1,214円DOWN ↓</p>	<p><b>農林水産業費</b> 3,918円</p> <p>147円DOWN ↓</p>
<p><b>議会費</b> 2,402円</p> <p>7円DOWN ↓</p>	<p><b>商工費ほか</b> 7,896円</p> <p>8円UP ↑</p>		

# 賛否討論

令和3年度  
決算をチェック！



## 令和3年度 一般会計決算

定例会最終日に、令和3年度一般会計決算の内容について、7党派が賛成・反対の討論を行いました。その主な内容を紹介します。



**子育て世帯支援重視の  
コロナ経済対策を評価**  
親和会 山田眞悟 議員

令和3年度一般会計決算は、昨年度に次ぐ大型決算となった。歳入では、コロナ禍での弱めの経済環境なるも白主財源の町税が総額の45%を占め、評価する。歳出では民生費等で15億円余の国費を主財源としたコロナ対策が継続実施された。主には子育て世帯生活支援に約8億円、住民税非課税世帯生活支援に約3億円が充当され、子育てや経済弱者重視政策を評価し、賛成討論とする。



**コロナに対する諸施策を  
評価する**  
清流会 三浦雄二 議員

令和3年度一般会計決算は、コロナ禍が続く状態で諸対応を実施する中、形式収支（歳入歳出差引額）は13億5272万円余の黒字である。翌年度への繰越財源の内容は、住民税非課税世帯等に対する臨時特別給付金給付事業、三丁公園整備事業等、限られた財源で最大の効果を発揮する事業展開が行われる。他の項目も町職員の努力にて町財政の健全化が図られ、適正かつ効率的に執行されていると認められるため、賛成討論とする。



**脱炭素社会実現へ向け、  
持続可能な行政運営を**  
公明党 米村佳代子 議員

令和3年度のプライマリーバランスは19億3621万円余の黒字で、財政が健全であることが示されている。第6次総合計画に沿い、妊産婦支援事業、新生児聴覚検査補助事業、天白遺跡公園整備事業、防災マップ作成事業、自転車乗車用ヘルメット購入補助事業、PHV車等購入事業等、脱炭素社会実現へ向け、また我が党提案の施策が推進され、評価する。今後持続可能な行政運営の取り組みをお願いし、賛成討論とする。



**広報「ひがしうら」  
全戸配布を**  
庶民倶楽部 山田眞悟 議員

「予算を大きく立て、執行は節約」財源を残す「財布の口が堅い」では町の発展が伸び悩む。血税は有効に使う哲学を忘れずに。職員が残業時間が多すぎる。労基法を守るよう求める。保育士の持ち帰り残業対策、働き方改革を求める。「広報ひがしうら」の全戸配布を求める。現在通りだと隣組崩壊につながる。トップの全戸配布の英断を求める。敬老事業はソフト面で事業展開を求める。以上、賛成討論とする。



**町民の生命と財産を  
守ることを優先に**  
ひがしうらの風 長屋知里 議員

立地適正化計画の居住誘導区域の設定は、町民の生命と財産を脅かす災害リスクの懸念があり、町長の英断が問われる。景観まちづくりは、本町の示す景観に、町民の共感が得られていないことを再認識した。公共施設再配置計画には、老朽化に伴い更新が必要な東浦中学校の移転等、具体的な案を要望する。コロナに伴う臨時特別給付金およびワクチン接種業務、道路後退用地の順調な確保は評価し、賛成とする。



**コロナ禍真つただ中での  
黒字決算を評価する**  
無所属 大川 晃 議員

コロナ禍真つただ中の決算で、実質単年度収支は、2億円余の黒字決算。コロナ対策の経費総額は15億8600万円余、内子育て世帯への臨時特別給付金は、対象児童数7703名で総額7億円余と半分近くを占めた。コロナの影響により減額された事業は47件、5388万円余、残念に思う。国土強靱化地域計画による事業は4億円余で、国から2分の1の補助金を得てインフラ整備された。ふるさと寄付金は5億円余と底が見えたと感じる。以上、賛成討論とする。



**制度のはざままで苦労され  
る町民への支援は適切か**  
早稲穂ひがしうら 杉下久仁子 議員

このたびの決算では、コロナ禍で売り上げが減少した事業者支援、学びを止めない学校運営、妊産婦支援の充実等、町民の今の支援が行われたことは評価できる。しかし、そうした支援や制度のはざままで苦労される町民への支援では、子育て世帯臨時特別給付金でこれまで提起してきた児童手当の所得制限以外の世帯へ支援がなかったこと等、また図書館の指定管理者制度導入に向けた準備年度でもあり反対討論とする。

# 徹底審査

ワクチン接種で3億5千万円

## コロナ対策 歳入・歳出増 ↗

### ● コロナ対策に使用した経費

事業名	金額(千円)
子育て世帯への臨時特別給付金給付事業費	773,739
住民税非課税世帯等に対する臨時特別給付金事業費	291,569
新型コロナウイルスワクチン接種事業	261,517
新型コロナウイルスワクチン追加接種事業	93,872
保健センター施設改修事業	66,770
子育て世帯生活支援特別給付金事業費	22,945
学校保健特別対策事業費補助金	16,954
中小企業者等事業継続支援補助金	16,047
緒川児童館空調設備更新工事	9,132
保育対策総合支援事業費	6,525
他12件	27,724
<b>合計(22件)</b>	<b>1,586,794</b>

### ● コロナの影響により中止した事業

事業名	未使用額(千円)
産業まつり開催事業	11,300
観光推進事業(於大まつり)	5,000
消防団関係事業	4,366
人材育成事業(職員研修等)	4,350
社会体育一般事業(東浦マラソン等)	4,016
地区コミュニティセンター等維持管理費	3,300
議会運営事業	2,244
健康増進事業(各種教室・出前講座等)	2,241
介護予防事業(各種教室・出前講座等)	2,110
大府東浦花火大会補助事業	1,750
他37件	13,209
<b>合計(47件)</b>	<b>53,886</b>

Q コロナ禍2年目となる3年度のコロナ対策・対応の事業推進について、各部での業務改善の内容(ハード・

3年度コロナ対策推進事業における業務改善 3年度もコロナ対策・対応は重大事業であることに変わりなく、その事業推進には常に業務改善が必要。

Q 決算の評価と課題は。 A 1、2回目のワクチン接種率が約88%で、全国平均よりも高い数値であったこと等、新しい生活様式の実現のための事業を推進できたと考える。課題はデジタル化の促進で、5年度予算編成に反映したい。

新しい生活様式に対応した予算執行 令和3年度予算編成の基本方針に、ウィズコロナを見据えた新しい生活様式に対応することが盛り込まれ、執行された。

生活経済部では、町内小規模事業者の経営基盤の強化、事業の持続等を支援するため、新たに小規模事業者設備投資等補助金事業を実施。決算上

健康福祉部では、ワクチン接種の予約システム導入により、予約情報の一元管理と人員削減ができた。これにより、速やかにかつ安全に接種を行うことができた。

ソフト画面)は。 A 総務部では、感染症対策および納税手段の多様化を目的に、2年度にスマートフォン決済サービスを導入。3年度は決済アプリを増やしたり、アプリでの納税方法の案内を強化した。



▲自宅や職場等でいつでも納税可能



▲設置された網戸と自動水栓(緒川小学校)

は事業内容により事業費が減額したが、状況に応じた支援ができた。 教育部では、小中学校の学びを止めないために、教室に常時換気のための網戸や、手洗い場に自動水栓を設置。また授業や行事開催時の場所や設備の工夫、保護者参加人数制限・分散開催等の対策を実施。 図書館では緊急事態宣言時には臨時休館したが、完全閉館とせず、即座に臨時カウンターの設置による予約貸出を行い、利用者対応を実施した。

は事業内容により事業費が減額したが、状況に応じた支援ができた。 教育部では、小中学校の学びを止めないために、教室に常時換気のための網戸や、手洗い場に自動水栓を設置。また授業や行事開催時の場所や設備の工夫、保護者参加人数制限・分散開催等の対策を実施。 図書館では緊急事態宣言時には臨時休館したが、完全閉館とせず、即座に臨時カウンターの設置による予約貸出を行い、利用者対応を実施した。



【決算実質収支の評価】

各年度会計の歳入歳出差引額(形式収支)から翌年度へ繰り越すべき財源を控除した額を実質収支といい、当該年度だけの収支を把握・評価するために用いられる。

Q 3年度の実質収支は11億2千万円余の黒字でありそれなりに評価

するが、コロナ禍の異常事態、物価高騰等、町民の暮らしに大打撃を迫った中での予算執行であり、この黒字会計はもろ手を挙げての評価はできない。町民生活の救済予算措置がもっとあったのではないか。この決算からみて妥当な救済措置が取られたと考

A 3年度は住民向けの支援として新型コロナウイルススワクチン接種事業、住民税非課税世帯等に対する臨時特別給付金給付事業、子育て世帯への臨時特別給付金給付事業、

特別給付金給付事業、

事業者支援として小規模事業者設備投資等補助金等を支出しており、幅広く支援できたと考えている。

円安による物価高、燃料不足での値上げの影響には、3年度には実施していないが、4年度に水道料金の減免等の支援策を実施している。

【高額繰越明許費の影響】

予算成立後に、年度内にその事業が終わらない見込みのある支出で翌年度に繰り越して使用する経費を繰越明許費という。

Q 3年度の繰越明許費

繰越額は2億3千万円余。前年度比34%減とは言え高額レベルである。要因と4年度への影響は。

A 要因は、工事発注した結果不調となり再発注したこと、事業進捗の遅れにより事業を繰り越したこと、国の3年度第1次補正予算を活用し、三丁公園整備事業等を実施

したこと等が主なもの。4年度への影響は、繰り越した予算は補正がでないため、予算不足または不用額が発生するリスクがあること。事業を繰り越す際は予算不足、不用額が発生しないよう額の精査に努めていく。

【土砂災害の雨水対策】

土砂災害には、大雨や地震が誘因となって起こるがけ崩れ・土石流・地すべり等があり、人の生命や財産が脅かされる災害。



▲岡田川左岸 堤防かさ上げ(緒川字三角地内)



▲令和4年7月12日の大雨で発生した土砂災害

Q 本町も大雨による土砂災害、冠水被害が発生している。3年度の対策とその評価は。

A 第6次東浦町総合計画に基づき水害の危険性を軽減させるため、河川の改修、雨水対策の推進、雨水施設の維持管理、ため池の保全に取り組んでいる。

3年度の河川改修は、境川の川底掘り下げ、岡田川の堤防かさ上げ、須賀川の河川改修、治水上の支障となる河川の堆積土砂撤去等、定期的な維

持管理も含めた工事が県により実施された。

雨水対策の推進は、雨水の流れを改善するため、生路1号幹線の排水路改修工事を実施した。

雨水施設の維持管理は、ストックマネジメント計画に基づきポンプ場の長寿命化を図るため、藤江ポンプ場除塵機塗装と燃料タンクのセンサー交換を実施した。

総合的治水対策に取り組むも、7月12日の大雨では町内各地で冠水被害や水路の水が溢れ、いまだ万全ではない。継続して取り組んでいく。

【地球温暖化防止対策】

第3次東浦町の環境を守る基本計画では、脱炭素社会・自然共生社会・循環型社会等の実現のため「地球温暖化対策実行計画」を策定している。

Q 3年度は環境を守る基本計画の初年度である。環境保全対策の実績と効果は。

A 地球温暖化防止に貢献するまちづくりとして、住宅用地球温暖化対策機器設置費補助および次世代自動車購入費補助を実施。定置用リチウムイオン蓄電システム、プラグインハイブリッド自動車等多くの補助実績があり、環境性能に優れた住宅用温暖化対策機器や次世代自動車の普及促進でCO<sub>2</sub>排出削減に寄与できた。

Q 自然環境学習の森の業務委託先、業務内容、利用状況は。また、健康の道整備による相乗作用は。

A 業務は東浦町シルバー人材センターに草刈りや竹の除伐等を委託。自然観察会、保全活動の参加者は延べ2540人。散策目的の来場者数は把握していない。

健康の道整備による来場者数の増減等、相乗作用の分析はしていない。